

令和6年度 江戸川区立南葛第三小学校 学校関係者評価 年度当初・中間報告書

学校教育目標	生きる力を養う ○確かな学力(笑顔) ○豊かな心(思いやり) ○健やかな体(元気)	目指す学校像 目指す児童像 目指す教師像	○一人一人の個性輝く学校 ○自分がされてうれしいことができる子供 ○共に高め合い、共感(共汗)し合う教員集団
前年度までの学校経営上の成果と課題	<成果> ○組織的学校の運営の充実 ○多様性尊重の取組の充実 <課題> ○学力向上 ○教員の授業力向上 ○働き方改革の実践的取組		

教育委員会重点課題	<取組項目>・評価の視点	具体的な取組	数値目標	自己評価		年度末に向けた改善策	
				取組	成果		
学力の向上	<学力の向上> ・授業改善の推進、学習の基礎となる基礎・基本の確かな習得、家庭学習習慣に対する学校の組織的な対応による取組の実施・充実	・教員による補習教室を年10回実施、外部委託による放課後補習教室を年35回程度実施 ・東京ベーンッドリルの活用と分析、検証 ・児童の学習意欲を高める取組の実施	・児童意識調査の学習に関する項目での肯定的回答7割以上 ・ベーンッドリル学年平均正答率7割以上	B	C	○教員による補習教室4回、放課後補習教室12回(全30回)実施 ●東京ベーンッドリルの診断テストは、全学年で正答率70%を下回る結果となっている。	・指導の個別化と学習の個性化を意識した授業改善に努める。そのために、各学年の実態を把握し、発問の仕方や進め方等、授業改善を行う。
	<読書科の更なる充実> ・読書を通じた探究的な学習の実施・充実	・学習計画の選定及び並行読書用図書の実施 ・読書科校内OJT研修1回及び外部講師による研修3回実施 ・学校応援団と連携した学校図書館環境の整備	・図書館を使った調べる学習コンクールへの参加数、前年度より増加 ・児童意識調査の読書に関する項目での肯定的回答7割以上	A	B	○各教科と学校図書館を連動した探究的な学習活動の実施により、調べる学習コンクールに3学年(1、2、5年)204名が参加。年度内に全校児童参加予定で取り組んでいる。	・三小必読書百選を活用したり、各教科の調べ学習で本を用いたりしながら、読書の更なる習慣化を進めていく。
	<多様性の尊重> ・個性の違いを尊重し、差別を許さない指導の徹底及び性別、性的指向、障害などの多様性を尊重する教育	・福祉を柱とした総合的な学習の時間の充実、地域団体等による出前授業を実施	・保護者アンケートで肯定的評価8割以上 ・児童意識調査の差別に関する項目での肯定的回答8割以上	A	A	○デフリンピアンや江戸川ボランティアセンターの方々による出前授業を3～5年で実施予定。	・各教科と関連付けて、効果的な出前授業を実施していく。
体力の向上	<運動意欲や基礎体力の向上> ・「運動意欲の向上」に向けた取組の実施・充実	・なわとびウオーク年間6週間実施、持久走記録会の実施、長なわ大会の実施 ・体育科の授業改善 ・体力調査の実施、分析、活用	・児童意識調査の運動に関する項目での肯定的回答8割以上	B	B	○体育科において、全学年で課題解決型の授業展開を行っている。また、タブレットでの動画撮影も取り入れている。	・系統性をもたせ、継続的な指導を行っている。
共生社会の実現に向けた教育の推進	<特別支援教育の推進> ・ユニバーサルデザインの視点を取り入れた個に応じた指導の実施・充実 ・エンカレッジルームの活用促進 ・副籍交流、交流及び共同学習の実施・充実	・SC参加の生活指導夕会の毎週開催、校内研修を年1回実施 ・特別支援教育コーディネーターを中心とした個別対応会議の開催 ・個別対応ができるエンカレッジルームの計画的運営 ・副籍交流及び共同学習の設定	・教員アンケートで肯定的評価8割以上 ・児童意識調査で人権に関する項目での肯定的回答8割以上	B	B	○SCと連携した生活指導夕会19回実施。組織的共有化が図れている。校内委員会にSCも参加することで、児童や保護者の思いに寄り添った情報共有につながっている。	・個別対応の方法等の情報共有を継続していく。
	<インクルーシブ教育の推進> ・特別支援教室やことばの教室との連携による指導の充実	・教員向け研修を年2回実施 ・児童への理解教育を年2回実施	・保護者アンケートで肯定的評価8割以上 ・児童意識調査で人権に関する項目での肯定的回答8割以上	A	B	○教員向け研修(4、7月)実施。児童への特別支援教室、ことばの教室理解集会を6月、7月に実施。	・ゆりのきやことばの教室との連携を引き続き行い、気になる児童がいればその都度情報共有を行う。
子どもたちの健全育成	<子どもたちの健全育成に向けた取組> ・不登校対策の実施・充実 ・教育相談の強化 ・hyspaer-QUの活用	・年3回(6、12、2月)の人権週間及びいじめ防止啓発デー(毎学期)の設定、いじめ防止に特化した授業を年3回実施、いじめ防止対策委員会の設置 ・hyspaer-QUの結果分析、指導に活用、改善	・保護者アンケートで肯定的評価8割以上 ・児童意識調査で差別に関する項目肯定的回答8割以上 ・保護者アンケートで肯定的評価8割以上	A	B	○6月の人権週間をはじめ、道德の授業等を通じて意識付けを行い、互いを尊重する心を育んでいる。	・生活指導夕会での情報共有を継続していく。また、必要に応じて対策会議を行い、迅速に対応していく。
地域に広く開かれた学校(園)の実現	<自校(園)の取組の積極的な発信> ・学校(園)ホームページの充実等 ・学校(園)公開の実施・充実	・学校日記を毎日更新 ・学期の2回の学校公開実施	・保護者アンケートで肯定的評価8割以上	A	B	○学校日記を毎日更新し、様々な日々の教育活動を発信している。 ・学校関係者評価保護者アンケートを12月に実施予定。	・日頃の教育活動が見えるように、ホームページや学年便り等で情報発信を続けていく。
	<学校関係者評価の充実> ・教育活動の改善・充実に向けた学校関係者評価の実施	・学校評議員及び保護者アンケートを年2回(7月、12月)実施及び分析・改善・学校ホームページ公表	・学校評議員及び保護者アンケートで13項目肯定的評価の数値7割以上	B	B	・学校関係者評価保護者アンケートを12月に実施予定。	・学校評議員の方々が発言しやすいように、ホームページで日頃の情報発信を継続していく。
特色ある教育の展開	<小中連携教育の推進> ・「小中連携教育構想」及び児童生徒間の交流の充実	・教員間の交流会年1回実施、部活動体験や中学教員による出前授業の実施、小中必読書百選の取組	・児童意識調査の中学進学に関する項目で肯定的評価9割以上	B	B	○中学校だけでなく、近隣の保育園の教員間交流の実施(7月)、情報の共有化が図れた。今年度も部活動体験を実施(7月)、体育大会に向けた交流学習(10月)、合唱コンクールハーサル鑑賞(10月)を実施予定。	・現在行っている活動を継続し、年間を通じて交流する機会を行う。
	<SDGs教育の推進> ・地域の歴史や特色を生かした海洋教育、環境教育の推進	・大学教授やNGO団体メンバー、地域の人材等を講師とした授業を実施	・保護者アンケートで肯定的評価8割以上	B	B	○食育と関連したSDGs教育を低学年で実施(6月)、葛西臨海及び地球温暖化防止を考える学習を実施(9月)。また、10月にも同様の取組を実施予定。	・各学年の年間指導計画に照らし合わせながら、効果的な人材を活用する。